

第8日

令和6年2月29日（木）

午前9時30分開議

○議長（小島清人君） 皆様、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は17名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、日程に従い、28日に引き続き一般質問を行います。

それでは、8番熊本正博議員の質問を許可します。8番熊本正博議員。

（8番熊本正博君登壇）

○8番（熊本正博君） 皆さん、おはようございます。8番熊本正博でございます。

本日傍聴にお見えになった方、それからインターネットで傍聴されている皆さん、お忙しいところ、誠にありがとうございます。

最初に、1月の1日に発生しました石川県の能登半島地震、大勢の方が亡くなられております。御冥福を申し上げたいと思います。それから、甚大な被害も受けております。これにつきましても、皆さんのお見舞いを申し上げたいと思います。一日も早い復旧・復興、そして一日も早い、皆さん方が通常の生活に戻っていただけることを願っております。

さて、今回、私、話をさせていただきたいのは、この頃、ちょっと集まりがございましたので、それに参加したときに、坂本龍一さんのお話がその中で出てまいりました。

その集まっている中の方にも、坂本龍一さんのことを、よくお父さんとかおじいさんを知ってある方がおられまして、NHKの「ファミリーヒストリー」、これに出たということでありましたので、その話で盛り上がりました。

ちょっと、この坂本龍一さんについてお話をさせていただきますと、曾祖父は、朝倉市の三奈木の坂の下から出てあったそうで、それから甘木町の安長寺付近に、料理坂本というところをされていたそうで、結構繁盛していたということだったそうです。

それから、その息子さんですけど、今度は四日町のほうに行かれて、新劇場を造られておりまして、この方は皆さんも御存じだと思いますけど、甘木盆俄で大変有名な方だったそうです。

だから坂本龍一さんも、ああいう血筋、血を引いて、あんな俳優さんとか、いろいろやっておられたのかなと思っております。

その息子さん、長男ですけど、この方が坂本龍一さんのお父さんであります。そのお父さんは甘木で生まれ、甘木で育ち、そして朝中を出てあります。今の朝倉高等学校の卒業生でありまして、その後、東京の大学に行かれ、そして東京で結婚されて生まれたのが

坂本龍一さんであります。

その坂本龍一さんは、やはり、お父さんが朝倉市の方だと、ふるさとだと、自分のふるさとだということで、平成29年の九州北部災害のときに、多額の義援金を送ってあるそうです。そういう方であります。

もう一年前にお亡くなりになりましたが、その前のファミリーヒストリーを見ますと懐かしいなという思いでございました。

それから、つい最近、2月の23日ですけど、皆さんも、これ御存じだと思いますけど、石川佳純さん、卓球の選手です。卓球の元メダリスト。この方が、何とまた、こちらの母方が、こちらの黒田官兵衛の家臣であったということで、そして小川主計さんといわれて期待をされていたそうです。

それで、福岡藩のほうから、今度は秋月藩のほうに移られて、そこでも活躍をされていたということでございます。

歴史になると、実藤議員から「違うぞ」っち言われるかもしれんけど、聞いてください。

そういうことで、島原の乱にも参加をしてありまして、そのヒストリーの中で、秋月の町並みと、それから秋月博物館の館長さんが出演をされておりましたけど、その中に、小川さん、小川の武将が島原の乱の城壁を登っていきよるところの絵があったのが御紹介されておりましたけど、そんなに石川さんも、朝倉市に関係のある方でございます。

そういうことがテレビに出て、全国版で放送されて朝倉市のことが分かっていただけというのは、本当にテレビというのはすごいなということを思っております。

もう一つだけ言わせてください。

映画で、「すばらしき世界」という映画がございます。これ、役所広司さんが出る映画で、シカゴ国際映画祭受賞をしておりますけど、この中でも役所広司さんは、この映画は実話を基にして作ったものでありますので、九州の方であるということで、その役の方が東京に行ってあったとき、そのときに友達ができまして、スーパーの店長でございます。これが六角精児さんが演じてありましたが、言葉がよく似とるもんで、役所広司さんのほうが、「あんた、よう言葉似ちよるばってん、どこな」というシーンがございます。

そしたら、そこでスーパーの店長が言うには、「あたしは福岡の朝倉たい」っち。「田舎ばってん」っち。こういうシーンがあります。そしたら、「おう、俺、隣たい。隣の町ばい、筑紫野たい」ちいうようなところが出てきます。

実際、その実話の方も筑紫野におられた方でございますので、方言丸出しで、その場面が出たとき、「ああ、うれしいな」と、朝倉市のこと、朝倉のことが、このシカゴ音楽祭で受賞した映画の中でから出てくるち。それを私が聞いたときは、えらいうれしかったです。

そういうことで、昨日も石井議員が申ししておりましたアンバサダー、これは大使、何とかの大使とかいう意味であるそうですが、今、職員とかが、そういうスポーツの関係とか、

いろいろ有名人、著名人の方を探されて、行って、なっただけんやろかということ、今、職員のほうで回ってもらっております。

ぜひ、今やっていることは、ぜひ、成功させるというか、広めていただきたいなとそうように思っております。

そういうことで、話は終わりました。もう一つ、最後に。

私は、今回こちらのほうで壇上に立つということでございましたので、フタタに行ってネクタイを今日買ってきて、ちょっと、皆さんの前で見ていただこうと思ひまして買ってまいりました。以上です。

今から質問席に帰りまして質問をさせていただきます。執行部の皆様におかれましては、明快な回答をよろしくお願いいたします。

(8番熊本正博君降壇)

○議長(小島清人君) 8番熊本正博議員。

○8番(熊本正博君) それでは、通告書に従い一般質問をさせていただきます。

まず最初に、小石原川の治水について、小石原川の河川整備についてでございます。

私は、令和5年12月定例会において、温暖化現象を考慮した筑後川の治水と小石原川の治水対策について質問をいたしました。これに対する執行部の答弁は、7月10日、洪水を経験した朝倉市としては、小石原川ダムの洪水調節だけで、小石原川沿川の洪水被害は軽減できるのかと強い不安を抱き、筑後川本川の治水機能の強化と併せて、さらなる小石原川の治水について、関係機関と協議していきたいということでございました。

同時に林市長は、河川整備基本方針の早期見直し、それに続く河川整備計画の見直しを加速していただくよう、引き続き関係機関に働きかけていく考えである。さらに、地域河川としての環境整備を整えていくことを課題と考えているので、しっかり取り組んでいきたいと答弁をされました。

ところで、本年1月に甘木地区コミュニティ協議会から、小石原川の堆積土砂撤去等に関する提言書が提出をされていると思いますが、その内容について、朝倉市は把握をしているのかどうか伺いをいたします。

○議長(小島清人君) 都市建設部長。

○都市建設部長(井上政司君) 小石原川の堆積土砂撤去等に関する提言書は、令和6年1月22日に甘木地区コミュニティ協議会会長から提出されてございます。

提言書は、既に市から福岡県朝倉県土整備事務所に進達を行っております。

内容については、2項目でございます。

まず一つは、甘木市街地区間においても、河道内に土砂の堆積が進んでいるので、出水期前に掘削を進めてもらいたいということ。それから2つ目には、平成30年7月に福岡県が策定しました河川整備計画に定められております、河道掘削や築堤等の河川整備を進めていくと説明しているにも関わらず、どのように進めているのか沿川住民には見えない。

進め方について、住民が安心できるように説明を求めるというふうにされてございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 確認します。

提言書は、朝倉県土整備事務所のほうに伝わっているということでしょうか。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 朝倉市のほうから、朝倉県土整備事務所のほうに進達をさせていただいております。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） では、次に入ります。

甘木コミュニティ協議会からの提言書では、平成30年7月に福岡県が策定した河川整備が、遅々として進んでいないと指摘をされています。小石原川の治水機能の現状は、市内を流れる主要な河川の中で、極めて治水能力が低い河川と聞いています。

河川整備が進められなくて、河川管理者も困っていると聞いていますが、市はどのように認識しているのかお伺いをいたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 小石原川の河川整備を担当されておりますのは、福岡県朝倉県土整備事務所でございます。当事務所からは、河川整備計画の整備目標、降雨確率50分の1に対し、暫定的に降雨確率10分の1で整備する考えであるが、河道内に撤去することとされております堰が存在しているため、河川の掘削が進められず困っていると聞いております。

小石原川の治水機能の現状は、降雨確率10分の1にも及ばないということございまして、福岡県が管理する朝倉市内の河川の中でも、治水機能の向上が必要な河川であるというふうに認識をしております。

市は、沿川住民の生命と財産を守るために安心なまちづくりを進めており、福岡県朝倉県土整備事務所には、一日も早く掘削等の河川整備を進めてもらいたいと強く求めているところでございます。

また、河道整備が計画どおり進められないのは、両筑平野用水事業で撤去することとされております堰が、いまだに存在していることも承知しており、この点につきましては、両筑平野用水事業を実施し、水利使用規則で堰を撤去することを河川管理者に約束しております水資源機構と福岡県朝倉農林事務所に、強く求めているところでございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 提言書を出された住民の方は、お願いしますというしか言いようがありません。そういうことで、水資源機構なり、それから朝倉農林事務所等には、強くこのことを要望していただきたい、求めていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、河川整備が進まない理由について、小石原川は特に治水機能の向上が必要であります。その理由は、小石原川に存在する農業用水の取水堰の存在であり、そのために必要な河川整備が進められないとの認識が明らかにされました。

小石原川に存在する堰は、水資源機構、福岡県などが実施した両筑平野用水事業によって、取水は新たに設置された4か所の頭首工から取水する計画になっていると承知をしております。

両筑平野用水事業は約50年前に完了し、運用が続いていると承知をしておりますが、なぜ、いまだに元の堰が残っているのか、なぜ、そこから水を取り続けなければならないのか、どうすれば解決するのかについて、市の認識を詳細に、そして丁寧に皆さんに分かるようにお尋ねをいたします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 詳細にということでございますので、少々お時間を頂くかと思いますが、よろしくお願いいたします。

水資源機構が実施しました両筑平野用水事業と、福岡県が実施した県営かんがい排水事業につきましては、両筑平野にかんがいを実施するため、江川ダムの建設のほか、幹線水路や支線水路を建設されたところです。

また、河川からの取水につきましては、それまで取水していた数多くの堰から取水を廃止して、新たに設置した女男石頭首工、下湊頭首工、甘木橋頭首工、本郷頭首工の4か所の取水口から、それぞれ取水することになっております。

水資源機構の江川ダムと女男石頭首工、甘木橋頭首工、幹線水路の両筑平野用水事業が完成いたしまして、昭和50年から水運用が開始されておりますが、支線水路等の県営事業が遅れたことや、区画整理の農地整備が当初計画どおり実施されなかった地区が存在しました。

そのため、当初、計画どおりの用水が供給できない地区が存在することになりまして、その対応として、平成24年になってから、幹線・支線水路から堰の取水口の下流までをつなぐ水路を整備する事業が、現在行われているところでございます。

県営農村総合整備事業は水利関係者の理解が必要であることや、完成後の通水試験期間等が必要であり、時間を要しているとのことでございます。

時間を要している主な事由を整理いたしますと、1つ目には、従前からの堰からの取水を行えば、つなぎ込み水路は必要ないとする意見。2つ目に、つなぎ込み水路で必要な水が確保されるか不安だという意見。3つ目として、従前の堰では非かんがい期でも取水ができ、地域の防火用水や浄化用水の機能を果たしているのに、新しい堰はその機能がないという意見でございます。

このほか、農業用水団体からは、残すべき堰があるとの意見や、そもそも農業用水が足りないとの強い意見が出されておるところでございます。

このように、水利関係者の理解が得られないと堰の撤去が進められないというのが、実態であるというふうに認識しております。

市では、小石原川沿川住民の生命と財産、農地を守るためにも、治水機能を高めるための河川整備は、待ったなしの状況であるということも認識をしているところでございます。

そのため、福岡県朝倉農林事務所や水資源機構と連携いたしまして、つなぎ込み水路事業が短期間で完成するように、洪水被害の軽減のため河川整備を急ぐ必要があることを、水利関係者の方々に説明し理解が得られるように尽力してまいり所存でございます。以上です。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 本当に丁寧に説明をしていただいて、誠にありがとうございます。

一方、河川整備に基づくしゅんせつ等の整備が進められず、小石原川沿川は、治水上、特に機能向上が必要な河川であるとの認識は、市も持っているようではありますが、であれば、もとの堰が残っている原因等に、真剣に向き合う必要があるんじゃないかなですか。回答は要りません。次にまいります。

甘木地区コミュニティ協議会から提出された提言書は、九日会——これは9町の区会長や、元の区会長の集まった代表でつくられた会のことでございます。それに、水利組合長さんらが提言書に同意するとして、署名捺印をされております。これは本当、重たい提言書であると思います。

市には、河川整備が急を要していることを十分認識していただきたい。その上で残存している堰撤去と、農業用水の課題を考えてもらいたいと思っておりますが、市の決意をお伺いしたいと思います。

本年も既に3月、そして6月に入ると出水期に入ります。本年の出水期に向けて、小石原川の出水期対策については、どのように考えているのかお伺いをいたします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 初めに、私のほうから御説明いたします。

治水機能を強化するため、河川整備が急を要していることは十分承知しております。残存している堰の問題や、農業用水が足りないとの根強い声に、市としてもしっかり向き合っていく必要は言うまでもないということとしております。

筑後川水系の水資源開発計画の第1号事業が、両筑平野用水事業と認識しており、この事業の江川ダムは、農業専用のダムとして計画がスタートしたと伺っております。

その後、福岡都市圏等、広範囲な地域を対象とする都市用水の開発や、河川の流水の機能の維持のための計画が組み込まれた経緯があることも伺っております。

江川ダムが完成してから50年たつ今日でも、この地域の農業用水に関する課題は残されており、かんがい面積が当初の約5,900ヘクタールから、現在は約4,700ヘクタールに減少しても農業用水が足りないという声は根強くあるところでございます。

朝倉市には3つのダムがあり、広域的な水供給の水源地としての使命を果たし、瀬ノ下地点の正常流量確保のためのダム群連携事業まで、受け入れている自治体であります。

残存する堰の課題、地域の防火用水や浄化用水の課題、残すべき堰があること、農業用水が足りないという根強い声に対する課題に対し、両筑平野用水事業の関係者には真正面から向き合っていたいただき、解決の方向性を指し示していただくことを強く求めていますと考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 私のほうからも回答させてもらいたいと思います。

ほかの河川同様、河川管理者には洪水被害を軽減するための河川管理、またダム管理者には、洪水被害に備えた事前の準備に、万全を期していただきたいと考えております。

特に河川管理者には、河道流下能力の低い小石原川については、堆積土砂の撤去を求めているというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） この件につきましては、両部長、よろしく願いをしたいと思います。

それでは、今、話されたことのまとめをさせていただきたいと思いますが、本日の質問で、市は小石原川が特に治水機能の向上が必要な河川であることを承知していることが分かりました。

その原因は、撤去が約束されている堰がいまだに存在しているために、洪水被害を軽減する河川整備が進められない状況にあることも承知しているところでございます。

沿川住民は、堆積している土砂を撤去してほしい。河川整備が進んでいない実績を説明してほしいと切実に求めています。これは、毎年のように起きる豪雨による洪水に危険を感じているからであります。

市は、令和6年度の市長施策の方針で、1つ目の目標として、災害に強く、快適に暮らせる安全・安心なまちづくりを掲げておられます。

農業用水の確保も重要であります。それにも増して河川が氾濫したら、沿川住民の生命と財産、農地が被害を受けるのであります。

同意書を取って回られた代表の話をお聞きしました。私が、なぜ小石原川の沿川の方々に同意を取りよるかという、「私は農業をしております」と。「そして、農業が大好きです」と言ってありましたが、それでも小石原川の氾濫により、地域が泥をかぶるわけにはいかないということでございました。まさに、そのとおりであると思います。

氾濫の危険を知らながら、河川整備が進まない状況を放置することは決してできないことであります。

今回、議会の一般質問で、こんなに私も掘り下げて説明をさせていただいたのは初めて

だと思っておりますが、また朝倉市の皆さん方の回答も、こんなに明らかに回答をされたのも初めてではないかと思っております。

最後に、福岡県朝倉農林事務所や水資源機構に、河川整備が進められる条件を一刻も早く整えてもらい、同時に福岡県朝倉県土事務所に、河川整備計画に基づくしゅんせつ等の河川整備を、早急に進めてもらうように強く求めていただきたいことを発言しまして、小石原川の治水に関する質問を終わります。

次に、件名が変わりますが、朝倉市未来予想図についてでございます。

まずは課題の整理ということで、私はいろんなところで会議等に参加していることが、機会が多くございます。その中で、ある方から朝倉市未来予想図とした資料を頂きました。

この件名は、私たちが勝手につけた名前でありまして、朝倉市が企画しているものではないでございます。それをまずもって申し上げます。

この資料が非常に興味深いものでありましたもので、これに沿って、この形で質問をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

まずは、朝倉市の課題とは、大きくは出生数の減少、高齢化、担い手不足、人口減少と捉えていますが、執行部はこのことについてどのように考えておられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 市はどういうふうに捉えてあるのかという御質問でございます。

まず、朝倉市未来予想図と議員がおっしゃられた分ですけれども、その件につきましては、執行部一同、目にできないものでありますので、熊本議員の考え、意見等を受け止めさせていただいて答弁をさせていただきます。

また、市が実施しています、先ほど議員もおっしゃいましたけれども、朝倉市未来予想図というのは、市が実施しています高校生の提言のタイトルのものもございます、議員が言われます朝倉市未来予想図とは、名称が、ちょっと同じではございますが、ちょっと異なるものであるということだけ、ちょっと補足説明だけさせていただきます。

議員が言われます出生数の減少、それから高齢化、担い手不足、それから人口減少につきましては、朝倉市を含めまして地方都市の多くが抱える人口減少社会における課題であるというふうに捉えております。

この点でいえば、昨年12月に閣議決定をされました「こども未来戦略」が示します3つの基本理念、1つ目が、若い世代の所得を増やす。2点目が、こどもまんなか社会に向けた社会全体の構造・意識を変える。3点目が、全てのこどもと子育て世帯を切れ目なく支援する。こういった喫緊の対応も課題として捉えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本正博君。

○8番（熊本正博君） それだけですか。私が聞いているのは、そういう地方都市からの多くの問題を抱えている課題とか、それから、そういうことは私も分かっております。私としては、この朝倉市がどういう取組をしようかということを知りたいと思います。どうか、それについてあれば答えていただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 朝倉市の取組ということでございます。

現在の取組としましては、今年度そういった課題に対応するという事で、シティプロモーション戦略会議、それからこども・子育て戦略会議というのを全庁横断的な組織としてプロジェクトチームをつくっております。

その中で、そういった課題に向けた対応ということの施策、それから事業について検討をしているところでございます。

また、地方創生予算枠というのを確保しまして、職員提案による事業を進めているところでございます。

令和6年度の予算に向けましては、11の部署から12の提案が出されまして、予算化を今議会で提案させていただいているところでございます。

こういったことにつきましては、職員それぞれが、一人一人がそういった人口減少、それから出生数の減少の課題に向けて考える機会となりますし、職員の資質向上に役立っていると思っておりますし、ひいては組織全体の活性化につながっていくものと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 今、言われたことを最初から言ってもらえれば、こういうことを聞きよるとやけんで、確かに、今、言われると、私もよく分かりました。

一般論ではなくて、朝倉市がどげん思っちゃうかということ、皆さんですが、包み隠さず話をさせていただくことが一番大切ではないかと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

次に、人口ビジョンと総合戦略についてでございます。

令和2年3月に人口ビジョンと総合戦略が、それぞれ改定、もしくは制定をされましたが、そのとき聞いた、今後目指す全て朝倉市の方向性は、今、どのように取り組まれているのかお尋ねをいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 第2期の朝倉市総合戦略につきましては、関係人口の創出拡大や未来技術の活用、それからSDGsの理念に基づきます取組の推進を原動力としながら、4つの基本目標を取組の方向性としております。

この4つの目標及び令和6年度における取組につきましては、議員各位に配付をさせていただいております、令和6年度当初予算の概要でお知らせをしているところでござい

す。

例として挙げさせていただきますと、移住定住推進の拠点となります移住定住交流センターのコンネアサクラをオープンしまして、きめ細かな相談体制の充実、それから移住者や市民の交流の場として運営をしていくといった取組でございますとか、また、こども家庭センターを設置しまして、妊産婦、子育て世帯、それから子どもへ一体的に相談支援を行うといったことと併せまして、地域や民間団体と連携をしました子どもの居場所づくりの事業でありますとか、母子手帳アプリを導入した子育てDXなどの支援を進めていくこととしております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 例えば人口ビジョン、私が印象に残っている言葉、これは全協でも説明がありましたが、朝倉市には大学がなく、どうしてもその年代になると人口が流出してしまう。卒業後、男性はある程度戻ってくるが、女性は出ていって、そのまま市外で就職する割合が高いという話、言われてみれば当然だと思いましたが、やはり、ショッキングでありました。それなら結婚も難しいだろうし、出生率を上げていくことも難しいと思います。

そして、それを解決するために課題と方向性として、地元で就職してもらう、地元に戻って通勤してもらう、朝倉市が都市部を含めた他の市町村への通勤・通学圏として機能していることをアピールし、朝倉市に住みつつ他の自治体に通勤するという、新たな定住促進に向けた取組が求められる。総じて、子育てがしやすい魅力ある雇用の場づくり、増加する外国人との共生社会の構築、住みよいまちづくりに対応した施策の推進と記載がされておりました。

それが、同時に制定された総合戦略の基本理念、方向性であると。具体的な取組は、当然、予算や決算が伴うもので聞いております。

そもそもの話として、それぞれ目指していたものは、今、どのようになっていますとか、この辺りまで達成できていますなんて思いを描くことができる話は、聞いた覚えはございません。

私たち議員を含め、市民も何か森を見せてもらいたいのに、いけないなというような気がするんですけど、何か木しか見せてもらっていないのかな、どうもそんな感じがしております。それをお尋ねしています。

今、この場でいろいろと説明を受ける時間はないので、端的に、着実に経過すべきところを通っているとか、なかなか思うように進んでいないとか、お答えを頂きたいと思います。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 端的にということですが、若干、ちょっと数字を入れて説明をさせていただきたいと思っております。

まず、国立社会保障・人口問題研究所が昨年12月に公表しました推計人口と、5年前の同研究所が公表しました推計人口と比較したところでございますけれども、2045年、令和でいえば27年になりますけれども、朝倉市の推計人口は3万17人から5,500人ほど上方修正となりまして3万5,578人となっております。

このことから見ましても、総合戦略に基づきます施策によって一定の成果が出ているものというふうに考えているところでございます。

また、総合計画の進捗につきましては、毎年度、まちづくり報告書を作成しまして、議員の皆様にも配付をさせていただいているところでございますし、ホームページのほうでも公表をさせていただいているところでございます。

議員がおっしゃいますような進捗管理につきましては、大変重要なことだと考えております。

現在、総合計画と総合戦略の策定期間が2年ずれているということから、両方の計画併せての進捗管理が、まちづくり報告書のような形でお知らせができるように、第2期の総合戦略の一部見直しをしまして、期間の延長等を考えているところでございます。

令和8年度からは、総合計画と総合戦略を同時期にスタートできるようにしたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 今の回答を聞きよりましたら、どうも報告と説明がないようでございます。幾ら聞いても、幾ら考えても答えが出ないのなら、もしかしたら、それが答えかもしれないと思います。

言いたいことはあるのですが、時間がないので次に進みたいと思います。

朝倉市の強みとは、ありふれた表現になりますが朝倉市の強みとは何と考えておられるのか教えてください。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 朝倉市の強みというところでございますけれども、まず、福岡市に通勤できる距離にありながら、かつ豊かな自然があるということ、フルーツや野菜などの豊富な農産物、それから、秋月や原鶴温泉をはじめとします観光資源などが大変身近にあるということが、ほかにはない魅力、強みであるというふうに考えているところでございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） これも、全員協議会の中で元副市長が話された内容でございますが、朝倉市の行政はアピールが下手だ。今後は、もっと積極的にアピールをしていかなければならないということを言われたことがありました。

農産物、観光、環境、この3つで結構です。それぞれについて、それからどのようにア

ピールしてきたか、そして、それがどれくらい効果があったと考えておられるのか。

いいですか、執行部がどれほど実感を伴っているのかをお聞きしています。具体的な数値ではありません。何かどれくらい効果的であったとか、どのような効果を期待して、何に取り組んでいたが期待したほどの効果ではないとか、そういったお答えをお願いいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 情報発信につきましては、現在、定例記者会見でございますとかマスコミへの情報提供、それからホームページの掲載、SNSによる発信などを行っているところでございます。

コロナ禍の影響もございましたけれども、市内の直売所の売上げ、それから観光による入込み客数などは、少しずつ回復していっているものと考えております。

さらには町を持続的に、それから活性化させていくために、地域の魅力を創出しましてイメージを高め、市内外に効果的に訴えをしまして、人材や賃金、情報などの地域資源の獲得を目指す活動といたしまして、いわゆるシティプロモーションに対する認識というものを職員間で共有しながら、朝倉ファンや地域愛を獲得し、持続可能なまちづくりを進めているところでございます。

また、環境面ということでございますけれども、令和4年1月のゼロカーボンシティ宣言、それから令和5年3月のワンヘルス推進宣言、こういったことによる環境面での取組も、新たな強みであるというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） せっかく企画振興部が立ち上げられ、新たな企画を立ち上げ、内外にアピールし成果を上げていくためでしょうから、頑張っていただきたいと思います。

私が、もう少し言いたいことがあります。今度の3月の2日、土曜日ですが、大谷選手のグローブをもらったと思いますが、このグローブを使って、子どもたちが野球をしようというような企画を、教育委員会が出しておられます。

この計画、そして「野球しようぜ」だけじゃなくて、ドジャースのユニフォーム、17番を着て、市民の皆さんが写真を撮ったりとか、それ以上に、また秋月博物館のほうからか、何か知らないですけども、兜を借りてきて、それをかぶって撮影をするというような、これはすばらしい計画だと私は思います。こういうのが新しい企画かなと。

恐らく他市町村では、大谷選手のグローブをもらったら、「はい、ありがとうございます」これはっちいうて、記念に校長室やらに飾っちゃく、3つです。もらっちゃる、飾っちゃるところがほとんどではないかなと思いますが、朝倉市は、これはまた一步進むんです。

初めてです。私が——初めてということはないですけども、こういう企画で、一番煎じを飲ましていただくというのが、いつも二番煎じばかりで、よそんなところがどうかやった

ら、なら、私のところやりましょう、ぐらいというのがあったんですけど、こんなにやっていただけることが、本当にいいことだと思います。

これにつきましては、何か生涯学習・スポーツ係長とシティプロモーション推進係長が、大谷選手のグローブを使って何かすることはねえやろうかというて考えたのが始まりでそう、何かできんやろうかということで、今回、これが実現をしたということを聞いております。

これを、また、この企画を面白いと思って、KBCの「シリタカ！」という番組が取材に来るというように、やっぱり面白いことにはマスコミは聞いて、飛び込んできますので、これはいい企画だったなと私は思っています。

これは、大いに朝倉市をアピールするチャンスだなと思っております。大谷選手もこの企画を聞いたら、本当にグローブをやってよかったなということを言われるのではないかなと私は思っております。

こういう企画を、どうぞ頑張ってやっていただきたいと思います。

また、これは企画をした者もあれなんですけど、それを受けた上司もすばらしいと思います。やろうと言っている。それから、それに市役所の野球部の職員が、全部応援して、審判とかいろいろなことをやって、職員を挙げてやるということがすばらしい企画だと私は思っておりますので、こういう企画を、皆さん、ほかにもいろいろ持つてある職員の方もおられると思いますので、ぜひ、こういう企画をどんどんやっていただきたいと思います。

それから、もう一つ言いたかったのがありました。今までの市の職員、私たちが何か企画とか、職員も企画されたということがありまして、新しい何か企画をしたら、できない理由を先に言う。だから、新しい企画が出てこなかったんじゃないかなと。あれをしたら危ない、これをしたら危ないとか、そういうのを先にもう考えてしまうので、新しい企画ができていないのではないかなということを、私も含めてでございますが思っております。

次に、外国人の受入れについて、これは、朝倉市が最も苦手とする課題だと思っております。

まず、朝倉市にお住まいの外国人数を教えてください。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 朝倉市にお住まいの外国人数ということでございます。

外国人の数につきましては、令和2年3月が785人でしたが、その後、令和3年3月が760人、令和4年3月が678人と、数年間はコロナによりまして減少傾向ということでございましたけれども、その後、増加傾向に回復をしております、令和5年3月は913人、直近の令和6年1月は1,000人を超しまして1,060人で過去最高となっておりますのでございます。

以上でございます。

○議長（小島清人君） 8 番熊本議員。

○8 番（熊本正博君） 朝倉市に外国人の方は1,060人おられるということですね。

これは、やっぱり朝倉市の人口5万人に対して、外国人が1,000人おられるということは、これは大きな数字だと思います。

外国人の方も大事にしていかなければいけないのかなと、そういうふうに思っておりますし、私の近所にも、やはり、そばに外国人の方がお住まいになっているところでございますが、外国人というと、どうしても労働者という話になりがちでございますが、人口ビジョンの中にも、増加する外国人との共生社会の構築という言葉がありました。労働力のみならず移住・定住を含め、外国人の受入れを検討すべきであると考えます。

この外国人の受入れ、具体的にどのように取組がなされているのか教えてください。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 現在の取組としましては、外国人の方が生活での困りごと、それから在留・法律相談などを求められた場合は、県が設置をします外国人相談センターを紹介しているところでございます。

センターには電話相談もできますが、必要に応じまして出張相談会も開催できるというものでございます。

今後、外国人も活躍できる朝倉市となるためにも、外国人の雇用の場、それから外国人数などの動向を見極めながら、適宜対応していかなければならないと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8 番熊本議員。

○8 番（熊本正博君） 増加する外国人との共生社会の構築ということで、いろんな方々の話を聞くと、例えば外国人実習生であっても、日本語や日本の習慣などを学ぶ場、そして安心して暮らせる場所の確保に苦労しているようでございます。

実習生は労働力ではありませんが、朝倉市で働いていただいているということに間違いはありません。そして、担い手の不足を大きく補っているのも、実際は実習生であります。

昔と比較して、日本に実習に行きたいという外国人の数が大幅に減っていると聞いています。それは、いろんな御意見もあるでしょうが、賃金が魅力ではなくなっているから、しかも円高傾向が続きました。先進国だと甘えられていた姿は、とうの昔になくなっていると思います。

こういったことに左右されず朝倉市に住んでみたいとか、朝倉市で働きたいと思われる施策が必要だと思いますがいかがでしょうか。お伺いいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 議員が言われることにつきましては、十分認識をしているところでございます。

現在、各自治体におきましては、国が定めます地域における多文化共生推進プランとい

うものに基づき取組を進めているところでございます。

令和2年に改定されましたこのプランにつきましては、外国人住民の増加、多国籍化や入国管理制度の改正を背景に見直されたというものでございまして、本市においてもプランの趣旨にのっとり取組を進めているところでございます。

外国人を地域の生活者として受け入れる土壌を育むということが求められている中、コミュニケーションや生活の支援、多文化共生の意識啓発、それから外国人の社会参画支援など、多文化共生社会の実現は全国的に求められている課題と受けとめておりまして、朝倉市としてもしっかりと取り組んでいきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 今話を聞いていますと、朝倉市は外国人の受入れが、まだ、やっぱり考えていますというだけで、やっぱり他市町村から比べるのなら、遅れているのではないかと思います。

また、私はいつも思うんですが、先進的な事例を踏まえていますという言葉が、昨日の一般質問の回答でも出ておりました。先進的な事例を踏まえて。——結構、ことあるごとに答弁をされていると思います。

その後、きちんと調べて取り入れられているのか、そもそも朝倉市が一番に取り組んでもいいのではないだろうと、さっきも申しました、一番煎じ、二番煎じの話じゃないですが、一番に取り組んでもらってもいいんじゃないかと思っております。

確かにお金がかかることはあるでしょうが、しかし、現状を変えていくなら、やはり投資は必要であります。お金、お金でなく、地域の協力もあるはずで。協力していただくにはきちんとお願いをしないといけません。

しかし、そうすることがいわゆる共生社会でしょうから、「近くに住んじよるばってんが、知らんもんな」じゃ、共生とは言えないと思います。

朝倉市未来予想図を託した方は、さらに踏み込んで高等学校での受入れとか、オイスカの導入とか、海外の受入れ拠点設置なんかを提言してありますが、そこをどうこうする前に、やはり朝倉市で共生の土壌が育っているかが問題だろうと思います。それは、始めに朝倉市ありきでもいいんじゃないでしょうか。

そうしないと、外国の方々から魅力的には映りませんし、朝倉市を目指そうとはなりません。

私が現役職員だったときに、朝倉市の事業が新聞の一面を飾ったことがありました。新聞の内容は、「国内で初めて」と書いてありました。覚えてありますでしょうか。このような「初めて」という言葉は、物すごい宣伝効果ではないでしょうか。今後期待をしたいと思います。

最後にDXの推進について、行政内部のDX推進は、急ピッチで進められていると聞い

ていますが、間もなく推進計画も策定されるとか。行政に関わる変革は市民サービスの変革でもあると思いますが、議会にこういう考え方で進めていきますよとか、このように変わっていきますよなどといった説明があった覚えはありません。

私に朝倉市未来予想図を託された方は、時代の流れとしてDXの推進は避けられないと言っていました。そのために必要なことは人材の育成であると。そのために、小中学校にその分野で突出したスペシャリスト教員を確保すべきであると言われております。

ただ、私は個人意見として、DXの推進について少しばかり疑問があります。DXの本来の意味は、デジタル技術の活用による変革であることを言われていますが、そうではない、違うことを言う人もいます。

DXとは、IT技術と人の融合である。どこまでをシステムが処理し、どこから先を人の手でやるのか、一番効果的な線引きをどこにするのかという話だそうです。IT化は量的変化であり、DXは質的变化をもたらすとも言われていました。

行政の導入、推進にあっては、市役所、さらには市全体を見据えた上の話でという前提がついてまいります。役所の中に目をやると、いろんな業務がある中で、DXが進んでいるものといないものという差が生じないように、ある程度、横並びで進めていかなければ、職員の異動に伴う現場の負担、職員個人の負担は増すばかりになるんじゃないかと心配をしております。

私は技術員でしたが、土木積算システムとかCADが導入をされました。CADというのはパソコンで設計書、図面を作るという作業なんですけれども、このCADが導入されていたわけですが、その時代にいた人間なんです、このときも、結局、現役のまま使い方が習得できない職員もいましたし、やはり組織が一丸となるというのが、きちんとした、みんなが理解しているという前提が必要であります。

DXの推進は急ピッチに進められているが、市全体ではどのように考えているのか教えてください。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） どのように考えているかということでございます。

まず、DXにつきましては、先ほど議員も触れられましたが、デジタルトランスフォーメーションの略で、Dはデジタル、Xはトランスフォーメーション、いわゆる変革というものを意味しております。

朝倉市におきましては、このXの部分、変革を重視しまして取り組むこととしております。デジタルありきというものではなくて、業務のあるべき姿を見据えて改善を行って、必要に応じて積極的にデジタルを活用するというふうに認識をしております。

このDXを推進するために、現在、DX推進計画というものを策定しております。来年度からは、この計画に基づいて取組を進めていくところでございます。

一方で、この計画を具体的に推進していくためには、議員が先ほどもおっしゃいました

ように、職員の共通認識というものが必要であることから、職員の意識の醸成が不可欠となります。

今年度はD Xの基礎的な共通理解のための職員研修を行いまして、課題の抽出とか業務改善の方法を学ぶといった研修を行いまして、環境を整えてきたところでございます。

また、全庁的に取り組む体制としまして、D X推進本部会議というのも立ち上げまして、推進を図っているところでございます。複数の部署にわたる課題に関しましては、プロジェクトチームを立ち上げまして、取組を現在進めているところでございます。

具体例を一つ挙げますと、窓口業務を担う複数の課の職員によりまして、窓口D Xプロジェクトチームというのを設置しまして、職員自らが来庁者役となってシミュレーションをする窓口体験調査というものを実施しております。

その調査から見えた課題、それから解決に向けた取組につきまして、市役所内で報告会を行っております。この報告会には、市長、副市長を含む職員約20名が参加をしたところでございます。

この調査は、デジタル庁のアドバイザーの支援を受けたものでございまして、この気づきから、現場の職員自らが窓口のあるべき姿を描きまして改善を行っております。研修で学んだデジタルツールを活用しまして、現在構築を進めております。

D Xというものは、一朝一夕で成し遂げられるものではございません。地道な取組が必要となります。D Xの理解をしっかりと深めまして、市民サービスの向上、それから行政事務の効率化というものを、できる範囲から着実に進めていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8 番熊本議員。

○8 番（熊本正博君） いろいろありがとうございました。A I やD X の導入について、まだ、私は疑問もありますので、今後も勉強して、また一般質問をさせていただきたいと思っております。

D X の計画書は、いずれ議会にもお披露目されるでしょう。楽しみに待っております。

以上で私の全ての一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 8 番熊本正博議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。10時50分に再開いたします。よろしくお願いいたします。

午前10時40分休憩